1万2000円均一でやってます

福 島 義 也

奨励者紹介〔ふくしま・よしや〕
日本キリスト教団河内長野みぎわ教会牧師

「天の国は次のようにたとえられる。ある家の主人が、ぶどう園で働く労働者を雇うために、夜明けに出かけて行った。主人は、一日につき一デナリオンの約束で、労働者をぶどう園に送った。また、九時ごろ行ってみると、何もしないで広場に立っている人々がいたので、『あなたたちもぶどう園に行きなさい。ふさわしい賃金を払ってやろう』と言った。それで、その人たちは出かけて行った。主人は、十二時ごろと三時ごろにまた出て行き、同じようにした。五時ごろにも行ってみると、ほかの人々が立っていたので、『なぜ、何もしないで一日中ここに立っているのか』と尋ねると、彼らは、『だれも雇ってくれないのです』と言った。主人は彼らに、『あなたたちもぶどう園に行きなさい』と言った。夕方になって、ぶどう園の主人は監督に、『労働者たちを呼んで、最後に来た者から始めて、最初に来た者まで順に賃金を払ってやりなさい』と言った。そこで、五時ごろに雇われた人たちが来て、一デナリオンずつ受け取った。最初に雇われた人たちが来て、もっと多くもらえるだろうと思っていた。しかし、彼らも一デナリオンずつであった。それで、受け取ると、主人に不平を言った。『最後に来たこの連中は、一時間しか働きませんでした。まる一日、暑い中を辛抱して働いたわたしたちと、この連中とを同じ扱いにするとは。』主人はその一人に答えた。『友よ、あなたに不当なことはしていない。あなたはわたしと一デナリオンの約束をしたではないか。自分の分を受け取って帰りなさい。わたしはこの最後の者にも、あなたと同じように支払ってやりたいのだ。自分のものを自分のしたいようにしては、いけないか。それとも、わたしの気前のよさをねたむのか。』このように、後にいる者が先になり、先にいる者が後になる。」

（マタイによる福音書 20章1―16節）

この話をご覧になって、とても不公平だと思われたのではないでしょうか。朝6時から働いた人と、夕方5時から1時間だけ働いた人がどちらも同じ給料をもらったとなると、朝から働いた人から文句が出るのは当然のことです。けれども、この一見不公平に思える話は何の話かと言いますと、最初に書かれてあるように、天の国の話なのです。つまり、天国、神様の世界ではこういうふうになりますよ、ということが書かれてあるのです。神様が、そんな不公平なことをされるはずがありません。では、この話は何を伝えようとしているのでしょうか。それを今日は皆さんと見ていきたいと思っています。

まず、お配りしました表をご覧になってください。横軸には6時、9時、12時、15時、17時とそれぞれの労働者が雇われた時間を記しています。縦軸には支払われた金額を記したいと思います。ただ、デナリオンという単位はなじみがありませんので、勝手に円に変えさせていただいて、時給1000円で考えたいと思います。すると、6時の人たちは12時間働いたので1万2000円もらえるということになります。私たちの

常識で考えますと、9時から働いた人は9000円、12時からの人は6000円、15時の人は3000円、17時の人は1000円ということになります。これならば誰も文句はないはずです。けれども、何かがプラスされて、みんな1万2000円もらったということなのです。一体何をプラスすれば1万2000円になってしまうのか、そこを考えてみたいと思います。

そこで、皆さんにはぶどう園の主人の気持ちになっていただきたいと思います。自分が労働者を雇うために朝6時に広場に行ってみると、いろいろな人たちがそこにいました。その中からどういう人を選びますか。おそらく皆さん同じ意見になると思います。若くて、健康そうな人を選ぶはずです。ぶどう園で一日中働いてもらうためには、そういう人を選ぶはずなのです。つまり、朝6時に雇われた人たちとは、若くて、健康そうな人たちだったということです。では、一方で一番最後まで残されていた人たちはどういう人たちだったのでしょうか。6時の人たちと反対だと言っていいでしょう。年を取っていたり、病気をしていたり、そういう人たちがそこに残っていたのです。その、最後まで残されていた人たちの気持ちを今度は考えてみたいと思います。彼らは、その日だけたまたま最後まで残されていたわけではないと思います。前の日も、その前の日も、毎日毎日仕事を求めて広場にやって来るけれども、誰も雇ってくれないという状況が続いていたわけです。朝一番は広場にいろいろな人たちがいて、にぎやかだったと思いますが、だんだんと人が少なくなっていきます。12時を過ぎると、なんだか寂しい感じになってきます。15時になると、ここで雇ってもらわなかったらもう今日は仕事がないかもしれないという恐怖も襲ってきます。仕事がなければ、お金がもらえず、お金がもらえなければ、食べるものも買うことができません。もう何日も食べていないという人もいたかもしれません。明日を迎えることができないかもしれない、そんなことも頭をよぎったかもしれません。そんな彼らはどんな気持ちだったでしょうか。もう誰も自分のことを必要としてくれないんだろうか、自分はこの社会でもう必要ない存在なんだろうか、そういう思いを抱いていたのではないでしょうか。

そこで、6時に雇われた人たちのグラフを見てみたいと思います。そのグラフでは、もらったお金の量が表されていますが、それを他のものに置き換えることができると思います。何に置き換えるかと言うと、そのヒントが6時の人たちの言葉の中にあります。夕方、給料をもらう時に彼らが文句を言った言葉をもう一度見てみたいと思います。「まる一日、暑い中を辛抱して働いたわたしたちと、この連中とを同じ扱いにするとは」と彼らは言っています。暑い日だったのだと思います。そんな暑い中で、ぶどう園で働いた彼らが一番多く流したものは何でしょうか。そう、汗です。この人間社会において、支払われる給料というのは、流した汗の量に対してだというのが、一般的な考え方なのです。たくさん汗を流して働いたら、それだけたくさんのお金をもらえるし、あまり汗を流さなければ、お金もそんなにもらえない、という社会なのです。では、一方で17時に雇われた人たちのことを考えてみましょう。先ほど彼らの気持ちを考えていただきましたが、そんな彼らが心の中で流していたものとは何でしょうか。そう、涙です。自分はもうこの社会で必要ない存在なんだろうか、自分なんか生きている意味はないんだろうか、そんな気持ちに追い詰められていた彼らは、心の中で泣いていたはずです。それぞれの時間に雇われた人たちが流した汗と涙をプラスしてみたら、お手元にお配りした表のとおりに、みんな1万2000円のところに届くのではないでしょうか。つまり、このぶどう園の主人は、どれだけ汗を流すことができるか、ということだけではなくて、その人が心の中でどれだけ涙を流しているかということにも心を留めてくれる人だったのです。

ところで、皆さんは今、自分がどの時間に雇われた人と同じ感じだと思われるでしょうか。すごく元気い

っぱいで、6時とか9時くらいに雇われた人のような感じだという方もおられるでしょう。でも、一方では、表には出していないけれども、実は17時の人のようにすごくしんどい気持ちなんです、という人もおられるかもしれません。でも、ずっと6時の状態でいられるわけではありませんし、ずっと17時の状態が続くわけでもありません。つまり、このそれぞれの時間に雇われた人の姿はすべて、一人の人間のいろいろな時の状態を表していると言えるのです。元気いっぱいで働くことができる時、周りの人からは高い評価をもらえることが多いです。でも、元気が出なくて、動くことができなくて、外に出ることもできず、誰にも会いたくなくて、ただただ一人で涙を流すしかないような状態が続くと、世間では「使えない奴」とか「ダメな奴」というふうに思われてしまうことがあります。いろいろ抱えていても、元気に見せないと、頑張らないと、評価してもらえないのが人間の社会なのかもしれません。

でも、たとえ17時の状態になったとしても、その人の命の価値は何も変わらないのです。元気でいっぱい動ける時だけ命の価値があるわけではありません。どんな状況に置かれていても、その人の命の価値は常に変わらず素晴らしいものなのです。でも、人間社会ではなかなかそういうふうに見てもらえません。そんな中で、神様だけは、私たち人間がどんな状況であろうと、動けなくて何もできなくて、ただ涙を流すしかないような状況だったとしても、私たちのことを同じように愛してくださっています。「そんな状況でもあなたの命は素晴らしい」とおっしゃってくださいます。つまり、あのぶどう園の主人は神様をたとえているのです。そして、そこで支払われた給料の1万2000円は神様の愛です。人間社会の中で、周りから何を言われたとしても、どれだけ「使えない奴」だとか「ダメな奴」だとか言われたとしても、神様は常に愛してくださっていますし、必要としてくださっているのです。自分の命がそういう尊い命であること、そして周りのすべての人の命も神様に愛されている尊い命であることを、どうか忘れずにいてください。

2019年6月12日　今出川水曜チャペル・アワー「奨励」記録